

モダンライフ・イン・キョウト

Modern Life in Kyoto



2026年1月13日(火)~3月7日(土)
京都工芸繊維大学美術工芸資料館

Tuesday, 13th January, 2026 - Saturday, 7th March

Museum and Archives, Kyoto Institute of Technology

休館日:日・祝日、1月17日(土)、2月25日(水)、2月26日(木)

開館時間:10:00~17:00(入館は16:30まで)

入館料:一般 200円、大学生 150円、高校生以下無料

*大学コンソーシアム京都に加盟する大学の学生・院生は学生証の提示により無料

*身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳または被爆者健康手帳をお持ちの方及び付添の方 1名は無料(入館の際は、手帳の提示をお願いします)

協力:株式会社七彩、一般財団法人 J.フロントリテイリング史料館、高島屋史料館、

フランソア喫茶室、株式会社中澤ホールディングス、株式会社山本寛斎事務所、

松竹衣裳株式会社、京都・大学ミュージアム連携

本展は、京都工芸繊維大学美術工芸資料館の収蔵品を中心に、1900年ごろから戦後に至る京都における「モダンライフ（近代的生活）」の形成と展開を辿ります。

明治以降、京都は「伝統文化の都」であると同時に、新しい産業・教育・文化が交錯する「モダン都市」として独自の発展を遂げました。映画・演劇をはじめ、百貨店文化や喫茶店など、人々が集い、日常のなかにささやかな憧れやときめきをもたらす新たな都市空間が形づくられていきました。そこには、近代京都に特徴的なライフスタイルと感性が育まれていきます。

本展では、こうした新しい都市空間や文化がどのように創出され、受容され、日々の生活へ浸透していくのかを、当館収蔵品を中心に紐解きます。京都におけるモダンライフの諸相を再考するきっかけとなれば幸いです。

This exhibition traces the formation and development of “modern life” in Kyoto from around 1900 to the postwar era, focusing on works and archival materials held by the Museum and Archives of the Kyoto Institute of Technology.

Since the Meiji period, Kyoto has not only been known as a historic capital of traditional culture but has also developed as a “modern city” in which new industries, education, and cultural practices dynamically intersected. The emergence of cinemas, theaters, department stores, and cafés created new urban spaces that offered everyday encounters with aspiration, delight, and refined sensibilities, fostering a distinctive modern lifestyle in Kyoto.

This exhibition examines how these new urban spaces and cultural forms were created, circulated, and integrated into daily life.

第1章 世界のモダンへのまなざし

Encounters with the Modern World

19~20世紀初頭の欧米デザイン資料から、京都が「世界のモダン」と出会った過程を紹介します。これらは本学の前身・京都高等工芸学校の教育基盤として収集された資料で、近代京都が育んだ新しい造形感覚を示しています。

第2章 都市のモダンを生きる

Living the Modern City

1920~30年代、交通網の発達により旅とレジャーのイメージが広がり、京都の都市生活は一層モダン化しました。百貨店、喫茶店、劇場、フルーツパーラー等の資料から、消費・身体・装いが交差する都市文化が立ち上がる過程をたどります。

第3章 戦後モダン

Postwar Modern

1950年代の京都・大阪・東京における百貨店、喫茶店、舞台など多様な資料を通じて、戦後の「日常の中のモダン空間」を紹介します。パリ・モードの受容、デザイン教育、商業空間の展開など、戦後都市文化の断片を展示します。

第4章 おわりに

Epilogue

戦後の都市文化はその後も形を変えて継続します。その一例として、1970年開業のBALを取り上げ、京都における新しい都市的感性の場として再考します。モダンライフの探究は現代にも開かれています。

関連イベント

2026年2月7日(土)14:00~15:30「マネキンと京都」古川幹雄(株式会社七彩アートディレクター)

※申込不要・参加無料

会場

京都工芸繊維大学 60周年記念館

同時開催

展覧会「京都工芸繊維大学—近代京都の蚕業と染織—」

2026年1月13日(火)~3月7日(土)

お問い合わせ

京都工芸繊維大学美術工芸資料館

〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町

<https://www.museum.kit.ac.jp> / TEL: 075-724-7924

交通

○市営地下鉄烏丸線「松ヶ崎駅」下車1番出口から徒歩約8分

○京都バス「高野泉町」下車、徒歩約10分

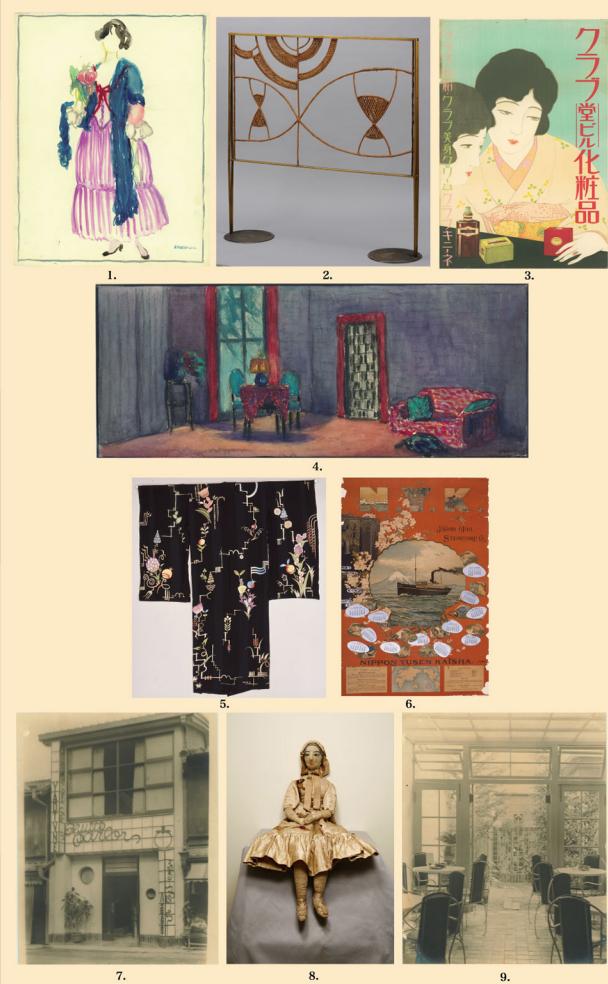
○叡山電車「修学院駅」下車、徒歩約15分

By Subways: Take Karasuma Line Subway to "Matsugasaki" Station, exit from Exit 1 and walk east for 8 minutes.

By Kyoto Bus: Get off at "Takano-Izumicho" stop. Cross the Takano river and walk west for 10 minutes.

By Eizan Railway: Get off at "Shugakuin" station and walk west for 15 minutes. Museum and Archives is located in front of the main entrance of KIT west campus.

企画: 本橋弥生 会場構成: 武井誠 衣裳構成: 鷲尾華子 フライヤーデザイン: 伊森杏瑚



作品情報

1. 本野精吾《舞台衣装コンテ》1923年. AN.4888-34
2. 村野藤吾《プランタン心斎橋用パーティション》1956年頃か. AN.5333
3. 作者不詳《クラフ化粧品》1920-29年. AN.5381-01
4. 本野精吾《舞台背景スケーム(No.20)》1923年. AN.4888-28
5. 図案及製作: 上田健一、染色及製作: 木村湖治郎《舞踏服(黒地段パリスに草花模様染別)》1932年. AN.2444
6. 作者不詳《日本郵船会社/三笠》1918年. AN.5232-2
7. 建築: 本野精吾、撮影: 不詳《フルーツパーラー八百常正面外観》1930年. AN.5343-190
8. 本野精吾《人形(女性: 長スカート)》年代不詳. AN.5348-14
9. 建築: 本野精吾、撮影: 不詳《フルーツパーラー八百常1階客席よりテラスを見る》1930年. AN.5343-191

